



◆巻頭言 腫瘍内科 嶋田 顕

寒暖の差がきびしい毎日ですが皆様健やかにお過ごしでしょうか？ 当院が木村拓哉主演のTBSの日曜テレビドラマA LIFEの壇上記念病院の舞台になっているのに気が付かれている方も多くおられると思います。主人公は天才外科医で心臓、消化器、脳などあらゆる手術を熟します。過去の医療ドラマで取り上げられる主人公の多くは、古くは「白い巨塔」の財前五郎、最近では「ドクターX」の大門未知子など、天才外科医が多くの場合定番ですね。さて今月の担当は腫瘍内科です。「腫瘍内科は何をすること？」と思われる方も多いと思います。何をしている診療科なのでしょうか？ 日本での腫瘍内科の歴史は非常に短く、私が昭和大学を卒業した頃（平成4年）は日本のどの医科大学にも存在しませんでした。昭和大学では約10年前に発足した診療科です。日本人の死因トップが「がん」になってかなり時間が経ちました。がん治療の基本は早期発見、早期治療であり、多くの「がん腫」で死亡率の低下が報告されています。しかし、術後の再発や発見時にすでに根治手術ができない場合があります。その様な時に薬物療法（抗癌剤、分子標的薬など）による治療があります。抗がん剤による治療と聞くと副作用を心配される方が多いと思います。しかし、現在は副作用を抑える支持療法も進歩し、多くの場合外来での治療が可能となりました。外来で抗がん剤治療をしながら、仕事や、旅行に出かけるなど充実した生活を過ごしている方も多くなっています。



一列目左から四人目嶋田准教授

日常生活など多くの悩みを抱えながら長期の治療となる場合もあります。多くの医療スタッフが皆さんを支えていますのでいつでもご相談ください。

最近免疫チェックポイント阻害薬などの新薬も登場し、従来の治療で効果が認められなくなった「がん」が劇的に縮小するなど、あと数年すると劇的ながん治療のパラダイムシフトが起きるといわれています。腫瘍内科はその中心になっていく診療科です。今後ともよろしく願い申し上げます。



第35号のトピックス

- 巻頭言 内科系診療センター
腫瘍内科 嶋田准教授
- 認定看護師紹介③
- スペシャルサンクスデー
- 翼状針の取り扱い研修
- 病棟保育士の仕事紹介

認定看護師紹介③

当院には、平成29年2月現在、認定看護師が15名所属しています。認定看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める615時間以上の認定看護師教育を修め、認定看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、5年ごとの更新制が取られています。認定看護師には21の分野がありますが、その一つ、皮膚・排泄ケア認定看護師は当院に3名所属しています。本号では、皮膚・排泄ケア認定看護師より、役割、活動をご紹介します。

皮膚・排泄ケア認定看護師 藤尾敬子（褥瘡管理室）

4月から褥瘡管理者として、日々褥瘡0件を目指し奮闘中です。

私の主な仕事は「褥瘡の予防と治癒に向けた支援」です。院内褥瘡発生患者の把握と分析を行い、対策を検討しながらケアの標準化に向けた「マニュアル整備」をはじめ、「マットレスの選択」「ポジショニング」「スキンケア」などスタッフと共に検討を行っています。また、褥瘡に対しては、褥瘡回診チームやNST（栄養サポートチーム）と連携し、「褥瘡回診」、「ハイリスクカンファレンス」、「NST回診」を実施し早期治癒を支援しています。

褥瘡以外には、「ストーマ外来（人工肛門の専門外来）」を担当し、支援を行っています。人工肛門造設者の多くは、仕事や趣味の継続、人工肛門周囲の皮膚トラブルなど多くの不安や問題を抱えています。ストーマ外来では、「人工肛門周りのトラブルが治って痛くなくなった」「仕事に復帰できた」「海外旅行に行ってきたよ」「臭いや目立ちにくい工夫を覚えてもらって前向きになった」という声を聞き、少しずつ以前の生活に戻ることができた患者さんの姿にとてもやりがいを感じています。今後も創傷、人工肛門、失禁トラブルを抱える患者さんに対し、支援を続けたいと思います。



皮膚・排泄ケア認定看護師 小松美奈子（外来）

皮膚・排泄ケア認定看護師は、創傷ケア、ストーマケア、失禁ケアと活動は多岐にわたり、そのケアの中心はスキンケアに関することです。

認定看護師の役割には、実践・指導・相談があります。創傷・オストミー・失禁看護に関する患者が心理的・社会的に安寧な状態で生活できるような援助を行いQOLの維持・向上が図れるような看護ケアの提供を行うことです。

現在、外来に所属しており、外来スタッフと共に癌化学療法を受ける患者さんに対して皮膚の保湿について指導を行っています。また、毎週木曜日の午後に足外来を担当し、皮膚科医師、形成外科医師と共に足トラブルに悩む患者さんのケアを行っています。足トラブルがある患者さんの下肢救済の一助になるような活動が出来るようになればと考えています。



右から二人目小松看護師

皮膚・排泄ケア認定看護師 瀬畑洋子（6階B病棟）

皮膚・排泄ケア認定看護師は、創傷、ストーマ、失禁の領域において幅広いケアを提供しています。現在は所属病棟で予防的スキンケアを実践し「褥瘡発生0」を目指して活動しています。患者さんの年齢や疾患を問わず、看護の現場では様々なスキントラブルが発生しています。皮膚を観察し適切なスキンケアを実施することで、褥瘡やスキントラブルは予防できると思います。常に患者さんの立場に立ち、1人でも多くの患者さんのスキントラブルを減らせるようにスタッフと共にケアを考えて看護を提供していきたいと思ひます。



◆スペシャルサンクスデー

2017年3月8日、病院長から毎日一緒に働く仲間への感謝の気持ちを込めたイベント『スペシャルサンクスデー』を開催しました。BGMと甘い香りに包まれた会場は職員の憩いの場となりました。

日々感謝の気持ちを忘れずにこれからも職員一丸となってより良い医療の提供を目指します。



翼状針の取り扱い研修

感染管理室では、2017年2月13日～16日に医師・研修医・看護師を対象とした「翼状針の取り扱い研修」を実施しました。翼状針とは、主に採血の時に使用する針です。当院で使用している翼状針には針刺し防止のための安全装置機能が付いており、この機能を正しく使用することで、医療従事者の血流感染をより減少させることができます。研修では安全装置の作動方法と作動のタイミング確認を行い、参加者からは「作動方法を復習することができた」「自己流になっていた穿刺や抜針技術に気付くことができた」などの声が聞かれました。感染症の拡大を防ぐためには、患者さんはもちろん、私たち医療従事者自身の健康確保も重要です。正しい知識・技術の習得で一層の感染対策を行っていききたいと思います。



◆ 病棟保育士の仕事 渥美 かや

当院のこどもセンターに保育士が常在しているのをご存知ですか。

入院生活は、病気や治療に伴う苦痛に加え、家族と引き離された環境であり、子どもに大きな心理的負担がかかります。病院は、子どもにとって治療する場だけでなく生活する場であり遊ぶ場です。治療は第一に優先されるべきものですが全てではありません。医療チームの一員として、スタッフと連携を図りながら、子どもたちが安心して入院生活を送れるようにサポートするのが私たち保育士の役割です。



朝、まだ眠っている子どもを起こすことから勤務は始まります。中には、朝早く起きて保育士が来るのを楽しみに待つ子どももいます。消灯時間を迎えると子ども達の寝かしつけを保育士が看護師とともに行います。

日中、子ども達は保育士とプレイルームで遊んだり、ベッドから動けない子どもは、保育士が玩具を持って行き一緒に遊んで過ごします。「遊び」は、子どもの成長、発達を促し、入院生活の不安や緊張を緩和する力があります。「遊び」によって子どもらしさは取り戻されるのです。また、前向きに治療に取り組めるよう、親しみやすいキャラクターを取り入れた生活表やディストラクションツールの作成もしています。

まだまだ認識の浅い病棟保育士ですが今後も、こどもセンター一丸となり子どもに優しい医療を目指します。

編集後記 横山 登

先日、国際学会にてインドのハイデラバードを訪れました。初のインド出発前に周りの人々から聞いた話はインドを旅した人は、「また何度でも行きたい」と思う人と、「もう二度と行きたくない」という人、必ず2種類に分かれるそうです。果たして私は一体どちらにあてはまったのでしょうか。今回訪れたハイデラバードはインドで6番目の都市で人口1000万人、東京と同じ人々が暮らしIT産業で発展した新市街とこれぞインドと思われる旧市街に分かれていました。あまりの貧富の格差を感じ日本に生まれたことを感謝しました。たった4日間の滞在でしたが何故か「また行きたい」と思ってしまった。これがインドの魅力なのかもしれません。。。是非皆さまも一度訪れてみてください。



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38

TEL03-6204-6000 (代表)

発行責任者：新井一成 編集責任者：長谷川真



Showa University Koto Toyosu Hospital